

2024. 07. 26

No.005

第6回定期大会において代議員の要請により

パート2

ワンマン施策についての

全体討論を行う！

組織的な問題について出された意見(要点のみ)

- 雇用の不安と対峙しながら、仕事をしている。
- 一番危惧していることは、安全・サービスの質の低下だ。
- 運転士と車掌の分断や運車と多系統の分断。分断＝組織の弱体化が狙われた施策だ。分断には組織の強化で跳ね返す。
- 利用者の声が大切であるし、私たちの声を利用するお客さまに知ってもらいたい。
- 自分たちの居場所を守るためだけの闘いではない。
- 人には機械にない感性や創造力がある。
- 一方的に施策を押し付ける会社の姿勢は、社員を蔑ろにしている。



出席いただいた議員懇の皆さん



業務担当部長「まとめ」より(要点のみ)

- ◆ 現状の機器類や設備では車掌の代わりが務まらないこと、安全・サービスの低下が目に見えていることが明確になりました。そして、この施策が実施ありきで、現場実態に則していないことが浮き彫りになりました。
- ◆ いま車掌組合員の不安が大きく渦巻いています。会社は私たちの声を聞き、本人希望を守るべきです。説明会を求めていきましょう。
- ◆ このワンマン施策は労組破壊をも視野に入れた攻撃であると断定できます。系統を越えたすべての仲間たちと共に議論を展開し、多角的に、理論的に、共感を得られる運動へつなげ、労組破壊には組織の強化と拡大で抗していきましょう。
- ◆ 私たちの明るい未来と、安心して利用できる鉄道を、公共交通のあるべき姿を取り戻しましょう。上野支部は系統を越えたすべての仲間とともにたたかいをつくりだしていきます

常磐緩行線ワンマン施策は綾瀬運輸区分会だけの問題ではない！！
全系統が連帯し、職場からの闘いで施策に立ち向かおう！！